アトサヌプリの火山活動解説資料（令和８年10月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１-①～③、図２）

監視カメラによる観測では、Ｆ１及びＦ２噴気孔群の噴気の高さは300m以下で経過しており、噴気活動の状況に特段の変化はありません。

・地震及び微動の発生状況（図１-④、図３）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源はアトサヌプリ（硫黄山）付近の西側に分布しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図４）

GNSS連続観測では、2021年秋頃から2023年末頃にかけてアトサヌプリ西側（硫黄山の西方約５km）の深部での膨張を示すと考えられる変化が観測されましたが、2025年１月頃以降、アトサヌプリカルデラを囲む基線では、2020年以前と同様に緩やかな短縮傾向が認められています。

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。

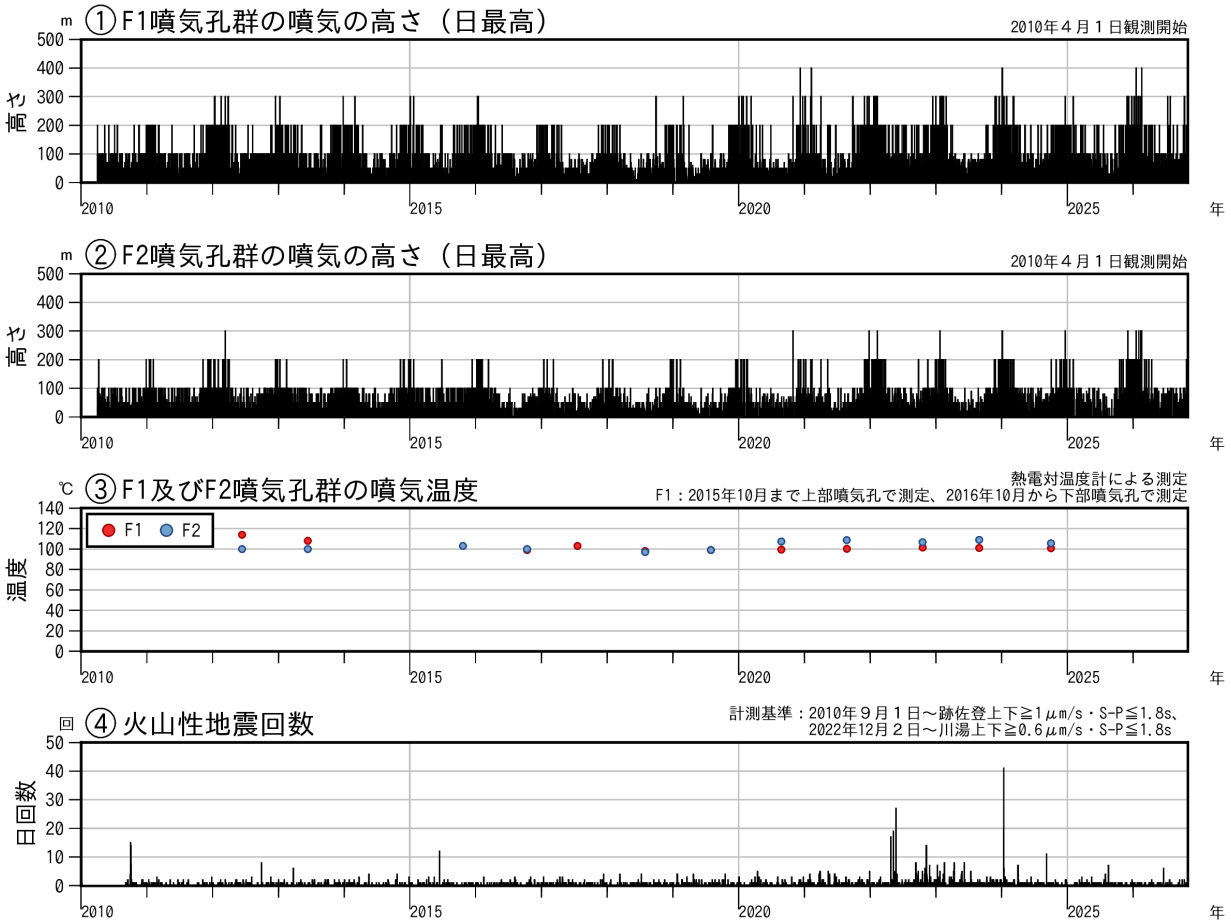


図１　アトサヌプリ　火山活動経過図（2010年４月～2026年10月）

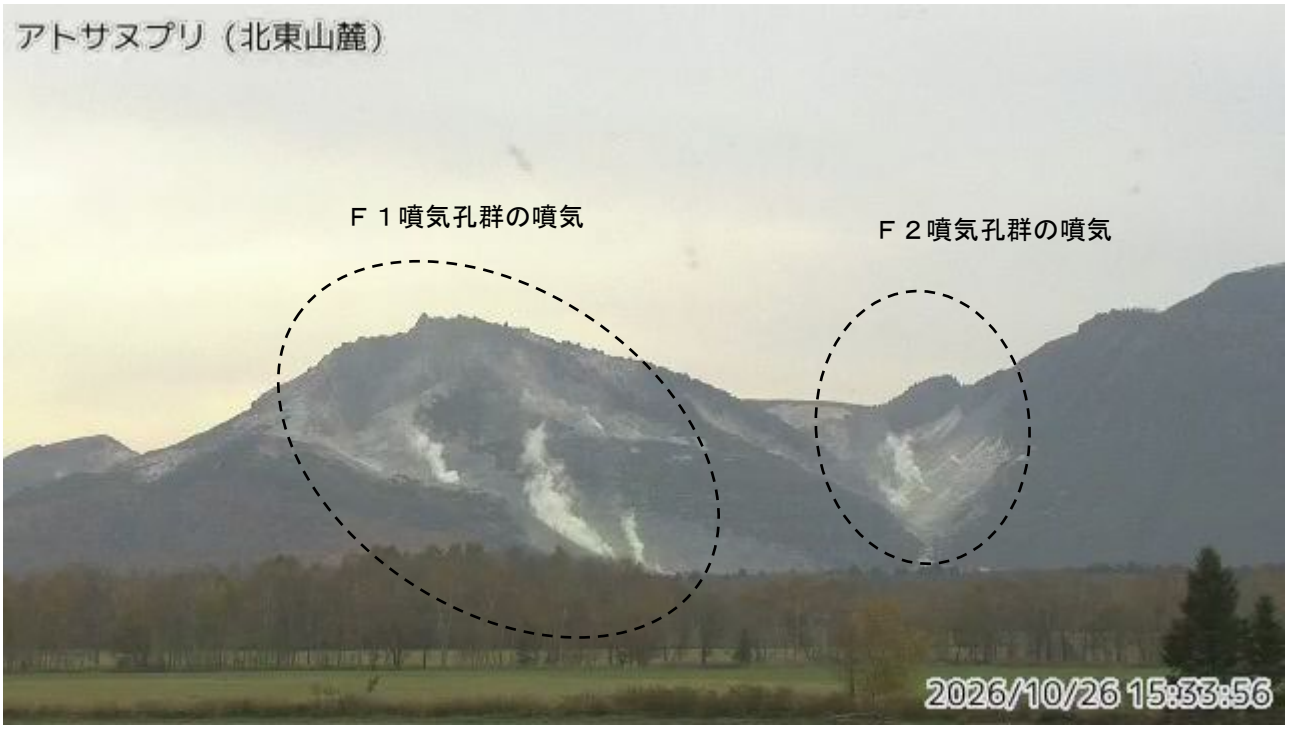


図２　アトサヌプリ　北東側から見たＦ１及びＦ２噴気孔群の状況（北東山麓監視カメラによる）

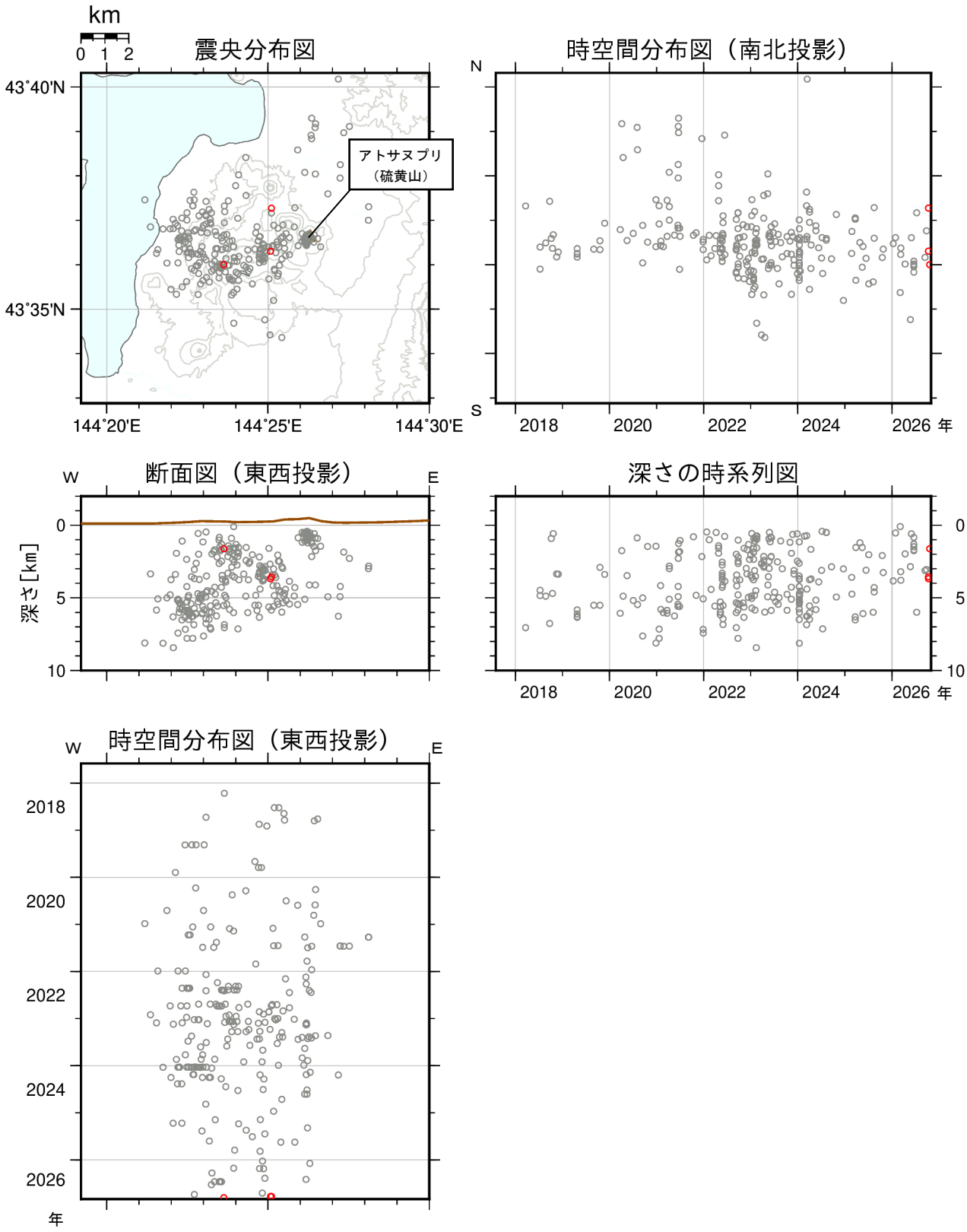
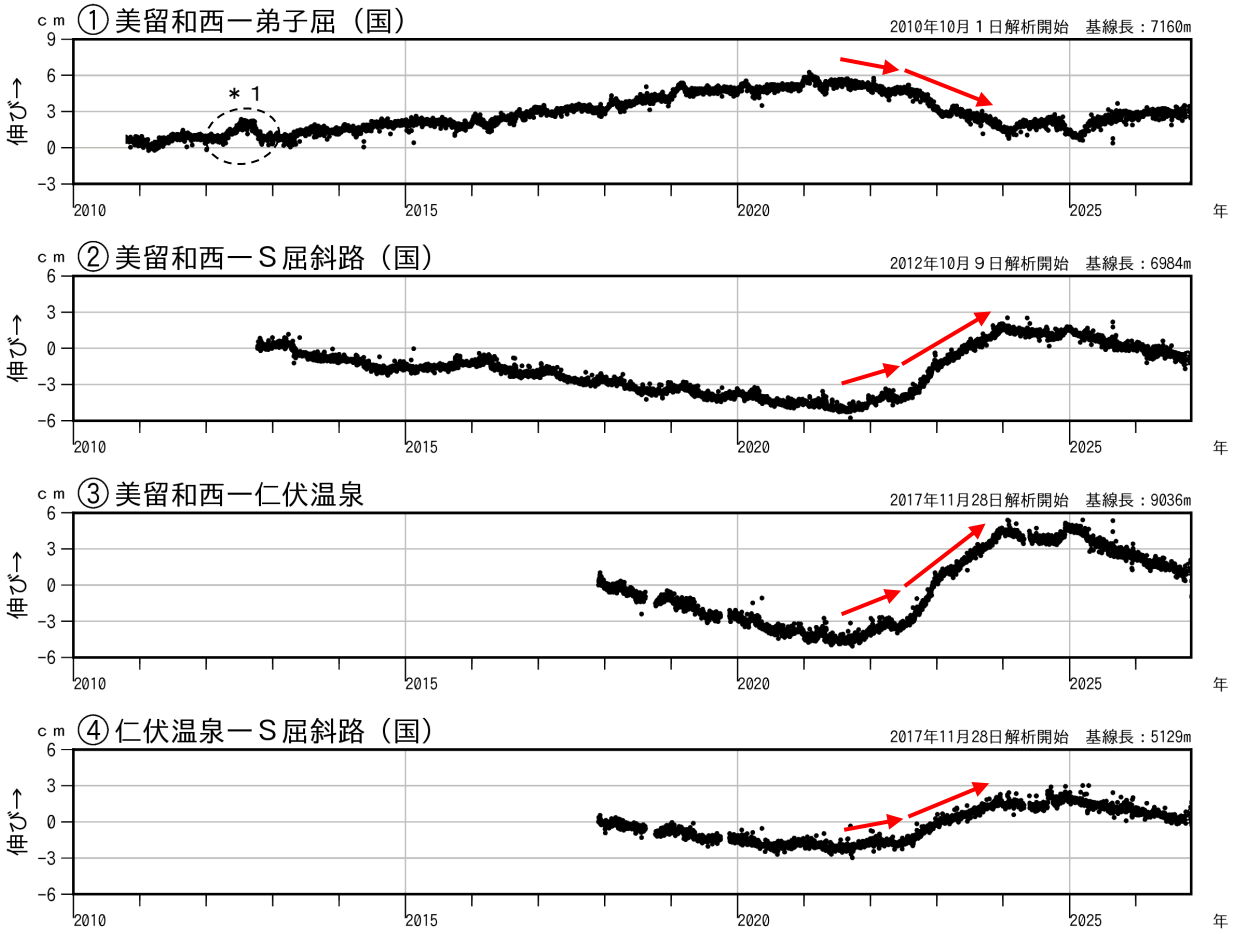
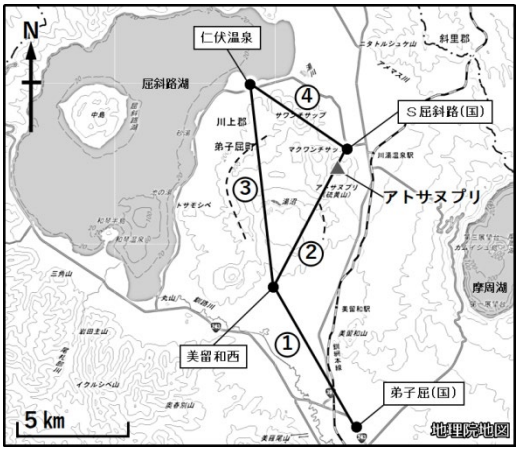


図３　アトサヌプリ　火山性地震の震源分布（2017年８月～2026年10月）

○：2017年８月～2026年９月の震源　○：2026年10月の震源

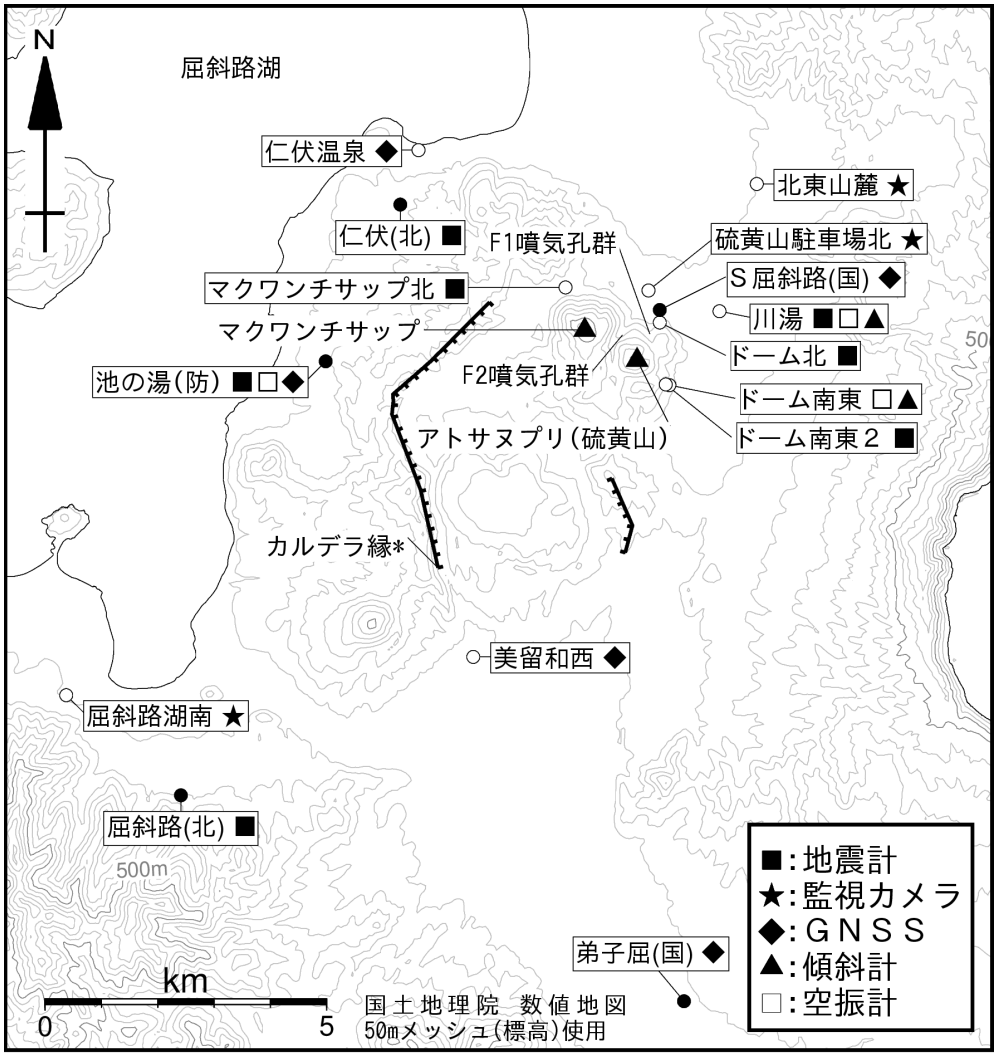




アトサヌプリカルデラの
カルデラ縁(勝井，1958)＊２

図４　アトサヌプリ　GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2026年10月）及び観測点配置図
冬季に凍上や積雪の影響によると考えられる変動がみられる基線があります。
①の破線内の変動（＊１）は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採によるものです。
グラフの空白部分は欠測を示します。
＊２ 勝井義雄（1958）阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。

・2021年秋頃から2023年末頃にかけてアトサヌプリ西側深部での膨張を示すと考えられる基線長の変化が認められました（赤矢印）。
・2025年１月頃以降は、アトサヌプリカルデラを囲む基線で、2020年以前と同様に緩やかな短縮傾向が認められています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所
*勝井義雄（1958）阿寒・屈斜路火山群 地球科学 39巻

図５　アトサヌプリ　観測点配置図